

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成27年8月20日 (2015.8.20)

【公表番号】特表2014-529496(P2014-529496A)

【公表日】平成26年11月13日 (2014.11.13)

【年通号数】公開・登録公報2014-062

【出願番号】特願2014-526421(P2014-526421)

【国際特許分類】

B 0 5 D 7/24 (2006.01)

B 3 2 B 9/02 (2006.01)

C 0 9 D 105/04 (2006.01)

C 0 9 D 5/20 (2006.01)

C 0 9 D 7/12 (2006.01)

C 2 3 C 26/00 (2006.01)

【 F I 】

B 0 5 D 7/24 3 0 2 C

B 3 2 B 9/02

C 0 9 D 105/04

C 0 9 D 5/20

C 0 9 D 7/12

C 2 3 C 26/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成27年6月25日 (2015.6.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

保護層を塗布することにより繊細な表面を損傷から保護する方法であって、
前記表面を、ゲル化特性を有するアルギン酸塩水溶液および前記アルギン酸塩をゲル化させる金属イオンと接触させる工程を含むことを特徴とする方法。

【請求項 2】

水中のアルギン酸ナトリウム溶液を、アルギン酸塩 0.3 から 3 質量 % で 使用することを特徴とする請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】

Ca^{2+} イオンを 金属イオンとして 使用することを特徴とする請求項 1 または 2 記載の方法。

【請求項 4】

前記水溶液が、水中で 0.3 から 3 質量 % の 塩化カルシウムを含むことを特徴とする請求項 3 記載の方法。

【請求項 5】

前記保護される表面に、まず前記アルギン酸塩溶液を、その後水溶液中の前記ゲル化金属イオンを噴霧することを特徴とする請求項 1 から 4 いずれか 1 項記載の方法。

【請求項 6】

保護層を塗布することにより繊細な表面を損傷から保護する方法であって、
前記表面を、温かいアガロース、カラギーナンおよび / またはゲラン水溶液と接触させ

る工程を含み、該水溶液は冷却されるとゲル化することを特徴とする方法。

【請求項 7】

0.1 から 3 質量 % の アガロース、カラギーナンおよび / またはゲランを含む水溶液を使用することを特徴とする請求項 6 記載の方法。

【請求項 8】

前記保護される表面に、温かい液体のアガロース、カラギーナンおよび / またはゲラン溶液を噴霧することを特徴とする請求項 6 または 7 記載の方法。

【請求項 9】

前記水溶液が、泡の形で塗布されることを特徴とする請求項 1 または 6 記載の方法。

【請求項 10】

前記水溶液が、細かく分散した形でアルカリまたはアルカリ土類炭酸塩を含むことを特徴とする請求項 1、6 または 9 記載の方法。

【請求項 11】

前記 Ca^{2+} イオンが、弱酸を噴霧することにより炭酸カルシウムから遊離することを特徴とする請求項 10 記載の方法。

【請求項 12】

水性グルコン酸を弱酸として使用することを特徴とする請求項 11 記載の方法。

【請求項 13】

前記水溶液が、微生物の混入を防ぐため殺生剤を含むことを特徴とする請求項 1 から 12 いずれか 1 項記載の方法。

【請求項 14】

前記保護される表面が、癒着防止剤で下塗りされることを特徴とする請求項 1 から 13 いずれか 1 項記載の方法。

【請求項 15】

前記保護層の厚さが、0.1 から 5 mm の 範囲であることを特徴とする請求項 1 から 14 いずれか 1 項記載の方法。

【請求項 16】

塗料被覆された表面を保護するための請求項 1 から 15 いずれか 1 項記載の方法。

【請求項 17】

前記保護される表面が、自動車の車体であることを特徴とする請求項 13 記載の方法。

【請求項 18】

自動車の繊細な表面を保護するための請求項 1 または 6 記載の方法により得られる保護層の使用。

【請求項 19】

鑄造工程において、キャスト・コンクリートを型枠から分離するための分離層としての請求項 18 記載の使用。